




# 図書館だより




読書週間特別企画第3弾です。今号は、第1学年団の先生方にお気に入りの本を紹介して頂きました。純文学からためになる実践書まで、バラエティに富む内容になっています。知識を高めるもよし、物語に涙するもよし...。心に栄養を与えましょう

**山本 宗明**  
『赤毛のアン』 ルー・M・モンゴリ著 (新潮文庫)



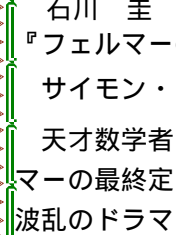
告白すると、私は赤毛のアンファンである。以前、カナダの留学生にアンのお話をしたら、「どうして知っているのか」と驚愕仰天された。心の友をこんな島国の一青年と共有している事への驚きである。「神は天にいまし、世はすべて事なし」。私は未だ、この心境に達していない。

**五月女 修**  
『竜馬がゆく』 司馬 遼太郎著 (文春文庫)




若者よ、いいから読め！読んでから考える!! “日本”が変わった一番の変革期である幕末を生きた男の生き様を感じる!!!  
君は今のそんな小さい生き方でいいのか？  
今が満足すればいいという生き方でいいのか？何のために生きている？落ちこぼれでも心で感じ、行動すればすごいことをやってのける。高校時代だからこそ、御一読を!!!!

**石川 圭**  
『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン著 (新潮文庫)




天才数学者ワイルズの「フェルマーの最終定理」完全証明に至る波乱のドラマを軸に、3世紀におよぶ数学者たちの苦闘を描く、感動の数学ノンフィクション。この証明に日本の数学者も大きな役割を果たしているというのがまた感動です。『数学ガール』もいいですが、是非こちらも一度読んでみてください。

**黒佐 哲郎**  
『人 イヌにあう』 コンラート・ロレンツ著 (至誠堂)



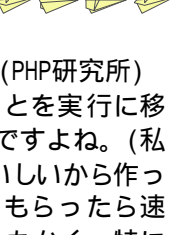
インプリンティング(刷り込み)現象を発見した動物行動学者として名高い著者が、自身が飼ってきた犬たちとのエピソードをまとめた一冊。ともすれば飼い主はペットを擬人化しがちだが著者はそういった動物観を避け、行動学的見地から鋭い観察眼を発揮する。犬に対する深い愛情に裏打ちされた文章が小気味よい。

**関口 久代**  
『脳を活かす生活術』 茂木 健一郎著 (PHP研究所)



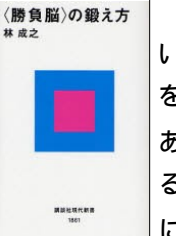
何でも人に勧められたことを実行に移すのは意外とパワーが必要ですよ。(私は案外、平気です。特においしいから作ってみて！と料理のレシピをもらったら速攻で作ります。) 映画はともかく、特に本は薦められてもなかなか読めないでしょう。ですが...この本は今の生活を極端にではなく、ほんの少しだけ変えてみたいと思っている方によるしいかと。気軽に大ざっぱに読んでみるのもいいかもしれません。

**寺内 卓也**  
『沈まぬ太陽』 山崎 豊子著 (新潮社)



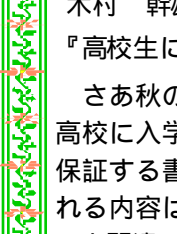
この小説は、日本最大の航空会社、国民航空を舞台に、不当な人事、損なわれる安全性、そして腐敗した利権構造に正面から戦いを挑む男たちを描いた、全5巻の社会派作品です。全5巻とボリュームがありますので、現在上映されている映画を観るのもいいと思います。こちらの作品も、途中で休憩を挟む、長編となっております。

**片山 正男**  
『勝負脳の鍛え方』 林成之著 (講談社現代新書)



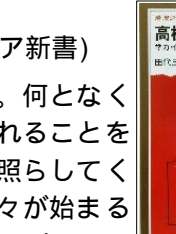
勝負に勝ちたいと願い、相手を上回る戦略をあれこれ考えることは、人間にそなわった本能のひとつです。そしてこの勝負脳は、みなさんのふだんの生活、勉強など、必ずやりとげなくてはならないことに立ち向かう上でも必要なものなのです。勝負に勝ちたいと考えている皆さんにおすすめします。

**木村 幹雄**  
『高校生になったら』 田代 三良著 (岩波ジュニア新書)




さあ秋の夜長、何を読もうか。私はこれを勧める。何となく高校に入学してしまった君に、これから積極的に送れることを保証する書である。50項目以上にわたりその道を照らしてくれる内容ばかりだ。さあ、次の日からは充実した日々が始まること間違いなし。未来の道が照らされるためにも読むべし。

**高槌 倫明**  
『人の心は色で動く』 小山 雅明著 (知的生き方文庫)



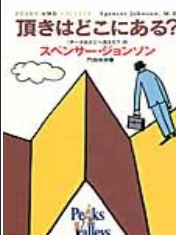
身の回りの生活を見渡すと、いろいろな色が氾濫しています。無意識のうちに人を引きつける色があるそうです。買い物、食事、さらに恋愛にいたるまで、私たちは色で判断している事が少なくありません。この本は生活に役に立つ色の性質、色の法則をまとめたものです。明日から、ちょっとでも参考にすればいいかも？

**仁平 礼子**  
『体温を上げると健康になる』 齊藤 真嗣著 (サンマーク出版)




あなたの平熱は何度？平熱が36度以下という「低体温」の人が増えているようですが、低体温は体にとっても危険なんだったこと知ってました？体温が1度下がると免疫力は30%低下するんだそうです。インフルエンザが気になる今日、ウィルスに負けない身体のためにも、ちょっと読んでみたい一冊でした。

**富島 渉**  
『頂きはどこにある？』 スペンサー・ジョンソン著 (扶桑社)



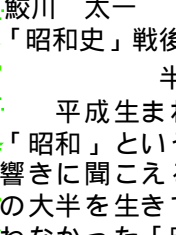
人生は山あり谷あり、という言葉をよく耳にします。私もまだ若年で、決して多くの経験を積んできたとは言えませんが、状況の起伏や気持ちの起伏に苦しむことが多いです。この本はそんな山と谷への一つの対処法を示してくれるものです。短く読みやすい本なので生徒の皆さんにもぜひ読んでもらいたいと思います。

**菅田 真文**  
『空想科学読本1~7』 柳田 理科雄著 (メディアファクトリー)



「マリオはキノコを食べると大きくなるが、そんなことがあり得ますか？」  
「ガチャピンはなぜそんなにスポーツ万能なのでしょう？」そんな素朴な疑問を科学的に解決してくれるのがこの本です。科学に興味のない人でも楽しんで読めると思います。

**鮫川 太一**  
『昭和史』戦後編(1945-1989) 半藤 一利著 (平凡社)



平成生まれの皆さんから見れば、「昭和」という時代は、ちょっと遠い響きに聞こえるかもしれませんが、昭和の大半を生きてきた著者が、学校で習わなかった「昭和史」を知らない世代に授業形式で語っていますので、読み物としてもとても分かりやすい通史です。敗戦の焼け跡からの復興、そして高度経済成長、バブルが弾ける前の40年間です。「今私たちはどこにいるのか」を知るには「どこから来たのか」知ることにより、「どこに向かえばいいのか」という指針となり、国のありようと同時に、自分の生き方にまで示唆に富む好著です。